

もくじ

元気っ子体験村 1~2
 こども園だより... 3
 宮田小だより... 3
 駒王中だより... 4
 事業活動報告 3~6
 宮田の昔⑥ 6

宮田まなざし

宮田学区
 コミュニティ推進会
 第123号
 令和6年10月5日発行
 〈発行〉 岩間 廣道
 〈編集〉 広報部
 〈印刷〉 (有)オーバル
 プリント



令和6年度

テーマ

宮田元気っ子体験村

やってみよう!
作ってみよう!



チーム・あお (三班)



チーム・あか (一班)

かみね動物園
クイズラリー



チーム・きいろ (四班)



チーム・みどり (二班)

7月27日(土曜日)
 宮田交流センター

宮田元気っ子体験村
 実行委員長 滑川 和之

今年の夏は「異常」と言
 っているほどの夏でした。
 連日のように最高気温が
 30度を超え、エアコンをフ
 ル稼働しなければ命を守れ
 ません。その上、どこかで
 線状降水帯が現れ、大雨の
 ニュース。また4年に一度
 のオリンピックで日本の活
 躍に、異常とも思える盛り
 上がりを見せていました。
 この頃、テレビでスポー
 ツ観戦をしていると「モグ
 モグタイム」というシーンを
 観ます。女子ゴルフでも
 カーリングでもおいしそう
 に、もぐもぐと何かを食べ
 ています。パリオリンピック
 のやり投げで金メダルを
 獲った北口榛花選手は日本
 のカステラを食べると力が
 出ると言っていました。今
 日もカステラを食べ、見事
 金メダルを獲得。本人いわ
 く「人は自分の力を信じる
 ことも大事だが、何かの力
 に頼ることも大切」と...。
 皆さんは「ここ一番」と
 いう時、何か験担ぎするも
 のがありますか。暑さ対策
 の験担ぎ、あつたらご披露
 ください。
 〈K・H〉



やってみよう！ 作ってみよう！

今年の「宮田元気っ子体験村」は少し趣向を変えて屋外の体験を企画しました。かみね動物園の協力を得て参加児童9名とボランティアの駒王中学生4名を4班に分け、午前に「クイズラリー」を行いました。

最初は出題された動物がどの場所にいるのかわからずに苦労している班もありましたが、休憩タイム中にはどのルートを通れば速くなるのかなど、各班とも真剣に話し合っていました。初めの不安もその姿を見て頼もしく感じられ、企画してよかったと思えました。午後からは宮田交流センター内で、日立風流物、切り絵、ニュースポーツ、それぞれ体験をしました。「風流物の人形操作体験」では、東町支部の皆さんのご協力で普段は触れない人形の操作を教えてくださいました。動かすことができました。「切り絵体験」の講師は、いつも楽しく教えてくださる竹蓋年男先生です。今年はパンダの切り絵を貼りつ



け、パンダうちわを作成しました。ナイフを上手に使い、真剣な表情で細かくむずかしい部分も、集中して作業している姿に感心しました。「ニュースポーツ体験」では「ユニカール」と「ボツチャ」を文化体育部長が講師となり、大人も加わって身体を動かし、みんな笑顔で盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。夕食は、食生活改善推進会の皆さんの協力で、焼きそばとおにぎりをおいしくいただきました。夜の部では「すばる天文同好会」の皆さんを迎え、その場で作って完成させた天体望遠鏡で「さあ、今から夜空の星を観てみよう」という時に雨が降ってきてしまい、残念ながら天体観測は中止となりました。これもまた、この夏の良い思い出と自分に言い聞かせ、来年は「てるてる坊主」を作って臨もうと考える私でした。



日立風流物の人形操作体験

動物園クイズの答えを求めて！



でっかいシャボン玉を作る



元気にユニカール



うまく切れたかな

切り絵体験



いよいよ天体観測という時に雨が……

天体望遠鏡を作ろう！



園児が中心となって野菜を栽培しました。中でもスイカ

**認定こども園
だより**

**四季折々の体験が
成長のステップに**

園長 滝 かおり

宮田学区コミュニティ推進会および地域の皆様方には日頃よりご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

みやた認定こども園は、0歳児から5歳児までの園児が在籍し、広い園庭や木のぬくもりを感じる園舎で毎日元氣いっぱい過ごしています。また、四季折々の様々な体験を積み重ね、心豊かな幼児の育成に努めているところです。

の生長は、小さい園児にも人気で、毎日畑をのぞきに行く姿は可愛らしく、微笑ましい様子でした。

そして秋の季節、今度はさつま芋の生長がこども園みんなの関心事になりました。しかし、葉っぱは生い茂っているけれど、肝心な実の部分が土の中に埋もれているので「何もなっていないのかな」、「土の上に出てこないね」など、様々な思いが聞こえてきました。「どんな形かな?」、「どんな色かな?」という純粋な想像と、手に取った時の新たな発見や不思議さを十分に受け止めて、自然に対しての関心が高まる経験にしていきたいと思っています。今から芋掘りをした時の園児たちの表情が楽しみです。

これから、運動会や保育発表会などの行事があります。様々な行事を通して、ひとつひとつの成長のステップを園児たちと一緒に楽しみながら、これからも日々の保育を大切にしていきたいと思えます。

**宮田小学校
だより**

**心豊かな「宮田っ子」を
ともに育てるために**

学校長 皆川 渉



東に太平洋を、西には阿武隈の山々を望み、本市の中核となる様々な施設に囲まれた立地。創立151年の年月に培われた歴史と伝統。心温かな地域の皆様と保護者に守られながら育つ明るく元氣で純粋な宮田っ子。私は赴任して5カ月の間、宮田小学校のよさを毎日のように感じているのは、このような宮田学区の素晴らしい環境の賜物だと思っています。

さて、私は毎朝、校門で

宮田っ子を迎えるようにしています。子どもたちは、いつも元氣に挨拶を返してくれます。ただ、そこで気になっているのは交通量の多いことです。ケヤキ通りや市民会館通りは歩道が狭いので、むしろ安心なのですが、一本奥に入った道路は狭く、歩行者用の線が描かれていても、危ないと感じるところもあります。大多数の運転手の皆様は、子どもたちのために徐行したり、一時停止してくれませんが、ごくまれにそうではない方もいます。

宮田っ子には、自分から危険を回避できる力を育てていきたいと思っています。学校でも安全な登下校については十分に指導してまいりますが、地域の皆様にもお気づきになられたことがあれば、子どもたちへの声かけや学校への連絡等をお願いいたします。これからもともに「宮田っ子」を育てていきたいと思います。(写真は、5月29日に行った原子力災害時の防災訓練の様子)

防犯講演会



7月10日(水)、日立警察署生活安全課の江面祐一課長をお迎えして「防犯講演会」を開催しました。参加者は26名でした。

講演内容は、県内の住宅侵入窃盗、自動車盗難、二七電話・SNS投資詐欺の発生状況で、それらの防止方法の説明を受けました。

講演後は、参加者が最近経験した身近な犯罪危険情報を紹介し、回避方法を話し合いました。日頃から防犯情報を収集して、犯罪防止に努めましょう。

防災・防犯部

部員 藤原則之



【駒王中学校】 だより

学校長
藤田 洋

若い力とつながり 地域を元気にしよう

駒王中学校では、昨年度から始めたプロジェクトが今年、さらにパワーアップしています。

それは「かみね元気プロジェクト」と題して、駒王中と明秀学園日立高校とが合同で始めたあいさつ運動です。月に一度、中学生と高校生と一緒に、本校前の通りで登校してくる中学生に「おはようございます」と元気なあいさつを交わしています。

本校では、生徒会役員や委員会の生徒が毎月交代で

担当し、一年間でほぼ全生徒が参加することになります。明秀日立高は、部活動ごとに参加しています。

さらに今年に入って、学期に一回程度、校舎周辺のゴミ拾いも始めました。これも、あいさつ運動を始め、た中高生が意気投合して盛り上がった結果、始めたこととです。

そして今年度、あいさつ運動やゴミ拾いの活動に賛同した日立第一高校と付属中学校の生徒も参加してくれることになりました。一回の参加人数は、3校合わせておよそ50名程度です。活動場所も2カ所に増やしました。中学生たちのつながりとパワーを改めて感じていきます。

若い力で地域を元気にしていこうという「かみね元気プロジェクト」は、ますます広がりを見せています。

近くにお住まいの方は、ぜひ声をかけてあげてください。よろしくお願いたします。

みやたおもちゃライブラリー

以前、担当していた頃比べ、現在の参加者のほとんどが1歳未満であり、幼児が自転車やおもちゃの車などを乗り回して遊んでいた頃のの違いに驚いています。これも、幼児たちの生活環境の変化に起因しているのでしょうか。

6年度も4カ月が経過、参加者数は前年と比較すると増加傾向にあります。このことは、①担当者が若い女性になったことで母親同士がつながり、輪が広がったこと、②チラシなどの配布によって参加を呼びかけたこと、③青少年育成部との連携強化を図ったことなど



どが要因と考えられます。今後、実施していることを地道に継続していくとともに、幼児と1歳未満の子との交流を図ることで、親と子が楽しくふれ合える場所にしてまいります。

また「日本おもちゃ図書館財団」より、おもちゃ提供の話があつて応募したところ、受理されました。スパーマリオ危機一髪、アンパンマン積み木など、20種類の新しいおもちゃが届きました。大いに活用して楽しんでください。

スタッフ一同、子と親が安全で楽しい時間を過ごせるよう頑張っています。お気づきの点やご要望などがありましたら、遠慮なく申し出てください。

毎週金曜日、9時から11時30分までスタッフ3名で運営していますが、人員が足りません。協力いただける方がおりましたら、いつでも結構ですので、連絡くださるようお願いいたします。

視察研修会

まだまだ暑さの続く8月24日(土)、朝6時45分に宮田交流センターから福島の高野多方面に向けて出発。午前中は、博物館類施設の「カイギョウランドたかさ」とで見学と発掘体験をしました。

体験学習区画には4つの展示室があります。まず地層展示室では「会津はその昔、海だった」という話や地層形成の成り立ち、鉱物などが展示され、貝・化石展示室では、貝やサメの歯の化石が、またクジラ化石展示室では、会津にはクジラが泳いでいた様子が紹介されています。さらにカイギョウ化石展示室には、国内では珍しい「アイツタカサトカイギョウ」の頭骨や肩甲骨、前腕骨などの化石が展示されていました。その他、現生種ジュゴン、マナティなどの海生哺乳類も紹介していました。

化石発掘体験エリアでは、防護メガネをつけて道具を使い、ツキカイモドキやタヤシラの化石を見つけることができました(写真)。

福祉推進部

部長 小野崎 照夫

部長 滑川 和之

青少年育成部



好みの昼食を楽しんだ後は「野口英世記念館」を見学しました。英世の生涯や母シカの息子への「はやくきてくれたされ」と書かれた直筆の手紙もあり、胸が熱くなりました。千円札の顔である英世の「2号券」が展示されていました。

このエリアには「世界のガラス館」や地ビールが楽しめる施設もあり、思い思いに楽しく過ごし、帰路に着きました。

青少年育成部では、これからも子どもたちが参加しやすい企画を計画していきたいと考えています。多くの参加を待っています。



部長 大和田 豊克

文化体育部

まずは、コース作りからです。5学区より3名ずつ

晴天に恵まれた令和6年6月30日(日)、滑川市民広場(滑川交流センター裏)にて日立地区体育振興会が主催する「第18回日立地区グラウンドゴルフ大会」が開催されました。

この大会は、仲町・中小路・助川・会瀬・宮田の5つのコミュニティ推進会から各1チームが参加して行われました。宮田学区ではGGS(代表者・川崎氏)のチーム19名の方々が参加してくださいました。

競技結果は、個人戦では小田島氏、団体戦は宮田学区が優勝しました。準優勝のチームとは3打差で接戦を制して優勝し、3連覇の快挙を成し遂げました。

今後も春に1回、開催予定です。初めての方も大歓迎です。ぜひ参加し、グラウンドゴルフの楽しみを味わってみませんか。他のコミュニティの皆さんとの交流も大いに図れますよ。

日立地区グラウンドゴルフ大会 団体戦3連覇を達成

させることができました。主催者による挨拶から始まり、優勝旗の返還(前回、宮田が2連覇を達成)の後にルール説明があり、いよいよ競技スタートです。競技方法は、2ラウンド(8ホール×2回)のスコアで競います。ホールインワンを出すと1回につきマイナス3打となり、成績アップにつながります。

参加者19名の皆様には、爽やかな汗を流していただき、ありがとうございました。

協力を得て、立派なコースを完成

の協力を得て、立派なコースを完成



部長 山本 朝男

防災・防犯部

宮田学区の一斉避難行動訓練は、危険が迫っている場合に避難行動を習慣化する目的で先輩たちが継続実施してきたものです。たとえ「空振り」でも構わないから、避難行動を習慣化するための「素振り」と考えていただきたいと強く願い、別途コミュニティ推進会主催で実施する「総合防災訓練」とともに今後も計画していきます。

今回の避難訓練では、日立市が掲げる「誰一人取り残さない防災」という考えを踏まえ、宮田民生委員・児童委員協議会に協力を依頼し、避難行動要支援者の方々の参加(安否確認)に力を入れました。

9月1日(日)、県内には線状降水帯の発生予想も出ていましたので、日立市天氣相談所にも相談して実施した「宮田学区一斉避難行動訓練」の参加者は総数343名、うち避難行動要支援者の安否確認数は143名でした。来年も積極的にご参加ください。

一斉避難行動訓練を実施 「誰一人取り残さない防災」を

避難行動とは「危険な場所から適切な時間の余裕をもち、より安心・安全な空間へ自分の意志で移動すること」と考えます。東日本大震災から13年が経ち、最近とみに「自分は大丈夫」、「避難は不要」などと、危うい判断をされる方が増えているように感じます。

8月16日(金)、台風7号の影響で日立市から「警戒レベル3(高齢者等避難)」が発令、学区ごと23カ所の小・中学校で避難所が開設された際にも、宮田小学校への避難者はゼロでした。

親子ふれあい教室

「七夕飾り」に

願いをのせて



当部では、親と子の出会い、ふれあい、学び合い、語り合う交流の場を大切にしたいとの目的で「親子ふれあい教室」を、宮田交流センターで行っている「おもちゃライブラリー」に参加させ、開催しています。

6月21日(金)、「七夕飾り」を作って飾りました。近隣の方のご厚意で竹をいただき、短冊や輪飾りなど、色紙や千代紙を使って色鮮やかに飾りつけました。

参加者には予め用意しておいた「彦星・織姫」の乗った笹舟を工作していただき、終了後に笹舟と笹を一緒に持ち帰って家に飾ってもらいました。

また、短冊には参加者がそれぞれ気持ちのこもった願い事を書き、願いが叶えばいいなあと思いつけました。

その他にも「パン食い競争」をしたり、「シイラです」などの本の読み聞かせもしました。

親子が共に元気に楽しい時間を過ごせる一助になればと思いつけながら、私たちも活動を楽しんでいきます。

皆さんも自分に何ができるか考え、交流センターを通して活動していきましょう。お待ちしております。



青少年育成部

部長 滑川 和之

写真で見る 宮田の昔⑥

神峰神社のシイ

郎さん、左端は日立町

神峰神社境内にあった巨樹を紹介します。写真は昭和11年1月11日に撮影されました。国道のすぐ上にあり、拝殿の東側にあつたこのシイは、すでに失われて現存しません。

撮影したのは、入四間の関 右馬允。「巨樹老木に憧憬を持っていたのは、ずっと古い頃から…」と語る右馬允は、昭和4年から本格的に県内の巨樹老木調査を始めます。そしてこの調査をまとめた『茨城県巨樹老木誌 上巻』（昭和11年）に、神峰神社のシイが収録されています。

「シイの幹周は6m18cm、樹齢350年、樹高15m、地上5尺の所から5本に分岐している」とあります。シイと一緒に写る人物は、神社の氏子総代たち。右から水庭西太郎さん、根本敬松さん、福地秀三郎さん、割貝辰太



長の大窪喜太郎さんです。日立鉾山の煙害問題に入四間の住民代表として交渉を持ち、妥結に尽力した関右馬允。当時はめずらしかったカメラを大正10年1月に購入し、庶民の生活、煙害、巨樹老木などを写真に収めました。53年にわたりアルバム162冊、5万コマを超える貴重な記録を残しました。

郷土博物館では、特別展示「庄屋・関右馬允が向き合った日立の600年」を11月4日(月)まで開催しています。関右馬允が撮影した写真をパネルで展示しています。

日立市郷土博物館
研究員 萩原 明子

絵本でえいご ラボ・パーティ
生徒募集中！ 随時体験会受付中！
(幼児・小学生)
英語との出会いを
素敵な絵本で楽しみましょう

指導：佐藤 世津子
☎ 080-5086-4521
QRコードから
茨城県・日立市・宮田町で検索



第32回 宮田 ふれあいまつり

小雨決行

期日 11月3日(日曜日) 午前9時から

会場 宮田小学校 グラウンド

お詫びと変更
第122号の令和6年度事業計画記載の『ジャズを楽しまう』の日程を「11月10日(日曜日)」に変更しますので、ご了承ください。